

[分 類] 普及技術

[成果名] なしのシンクイムシ類防除にエクシレル SE が有効である

[要 約] なしのシンクイムシ類防除にエクシレル SE の 5,000 倍液を散布する。ミツバチ及びマメコバチに対して影響を与える恐れがあるので、巣箱付近や訪花期間中に散布しない。

[担 当] 南信農業試験場栽培部

[部 会] 病虫部会

## 1 背景・ねらい

なしの重要害虫であるシンクイムシ類に効果が期待できる薬剤を選定するとともに、なしに対する薬害を検討したところ、有効であったため、今回普及技術とした。

## 2 成果の内容・特徴

(1) なしのシンクイムシ類防除にエクシレル SE の 5,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

エクシレル SE

[一般名及び成分含量] シアントラニプロール 10.2% (IRAC コード<sup>注</sup>) : 28)

[毒性] 人畜毒性：毒物・劇物に該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 27 年 10 月 1 日 JPP ネット確認) ]

作物名	適用害虫	希釈 倍数	散布液量 リットル/10 a	使用時期	本剤及びシアントラニプロールを含む農薬の 総使用回数	使用方法
なし	ハマキムシ類 シンクイムシ類	2,500～ 5,000	200～ 700	収穫前日 まで	3回以内	散布

本試験は純粋に殺虫剤の効果を判定する目的のため、また適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

注) IRAC コードとは IRAC (殺虫剤抵抗性対策委員会) が定める殺虫剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農薬工業会のホームページ (<http://www.jpca.or.jp/lab/mechanism.html>) を参照する。

## 3 利用上の留意点

- (1) 本剤はジアミド剤であり、シンクイムシ類の筋肉の収縮を引き起こすことで摂食が速やかに停止するが、殺幼虫効果の発現はやや遅効的である。
- (2) 対象害虫の薬剤抵抗性の発現を回避するため、連用、多回数使用は避け、作用性の異なる薬剤とのローテーションによる使用とする。
- (3) 蚕に対して影響があるので、桑園付近では使用しない。
- (4) ミツバチに対して影響を与える恐れがあるので、直接虫体や巣箱にかからないように注意する。  
また、マメコバチに対して影響を与える恐れがあるので、マメコバチの訪花期間中は散布しない。
- (5) 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。
- (6) 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。
- (7) 皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。

## 4 対象範囲

県下のなし栽培地域 905ha

## 5 具体的データ

### (1) シンクイムシ類に対する防除効果

ア 平成 25 年の試験では、シンクイムシ類に対してエクシレル SE は対照のサムコルフロアブル 10 と同等の防除効果が認められた。なお、シンクイムシ類の発生状況は中発生であった (表 1)。

表 1 なしのシンクイムシ類に対する供試薬剤の防除効果 (平成 25 年、南信農業試験場)

供試薬剤	希釈倍数	シンクイムシ類による被害果 (3 反復合計)			薬害
		調査果数	被害果数	被害果率※	
エクシレル SE	5,000	163	5	3.1%	なし
サムコルフロアブル 10	5,000	156	12	7.8%	なし
無処理		168	74	46.8%	

試験方法：試験場内圃場 発生状況：中発生 (優占種：ナシヒメシンクイ) 品種：「豊水」

区制・面積：1 区 10 m<sup>2</sup> 3 反復

処理方法：平成 25 年 7 月 31 日、8 月 8 日及び 21 日の 3 回、動力噴霧器を用いて 1 区当たり 15 リットル散布した。展着剤はハイテンパワー 10,000 倍を加用した。

調査方法：最終散布 22 日後の 9 月 12 日に各区全ての果実について収穫後解体調査した。薬害は達観調査による。

イ 平成 26 年の試験では、シンクイムシ類に対してエクシレル SE は対照のサムコルフロアブル 10 と比較して同等の効果が認められた。なお、シンクイムシ類の発生状況は少発生であった (表 2)。

表 2 なしのシンクイムシ類に対する供試薬剤の防除効果 (平成 26 年、南信農業試験場)

供試薬剤	希釈倍数	シンクイムシ類による被害果 (3 反復合計)			薬害
		調査果数	被害果数	被害果率	
エクシレル SE	5,000	289	0	0%	なし
サムコルフロアブル 10	5,000	291	0	0%	なし
無処理		318	36	11.3%	

試験方法：試験場内圃場 発生状況：少発生 (優占種：ナシヒメシンクイ)

品種：「豊水」(第 1 及び第 2 反復)「幸水」(第 3 反復)

区制・面積：1 区 10 m<sup>2</sup> 3 反復

処理方法：平成 26 年 7 月 24 日、8 月 5 日、8 月 13 日及び 22 日の 4 回、動力噴霧器を用いて 1 区当たり 20 リットル散布した。展着剤はハイテンパワー 10,000 倍を加用した。

調査方法：最終散布 17 日後の 9 月 8 日に各区全ての果実について被害の有無を調査した。薬害は達観調査による。

### (2) なしに対する薬害

いずれの試験においても、なしに対する薬害は認められなかった (表 1、2)。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

園芸作物の新規農薬等の効果試験、平成 25~26 年度 (2013~2014 年度)、協力研究